

## 支援技術 *Assistive Technology*

### AT スタンダードを基に実施していく際に生じるコスト

支援技術の活用に関わるコストは、主として各種支援機器の購入・整備にかかる費用である。支援機器の範囲は広く、福祉用具や専用の機器・アプリケーション・システムのみならず、ユニバーサルデザイン製品から一般製品の有効利用まで多岐に渡る。そのため、予算化し整備する支援機器を「消耗品レベル」と「設備レベル」に分け、障害学生支援に最低限必要なものから揃えた後、学生ニーズ等に合わせて計画的に整備することが必要である。

そこで、障害学生支援に最低限必要な「消耗品レベル」の支援機器を、『障害学生支援室 支援技術スタートアップセット Ver.1.0(参考資料 1)』としてまとめたので、参考にしていただきたい。

また、必要なときに利用できるように、支援機器をメンテナンスするためのランニングコストを見積もっておくことが必要である。ランニングコストにはメンテナンスにかかる物品購入と人件費が含まれるが、これも「日常レベル」と「定期保守レベル」に分けて検討すべきである。「日常レベル」とは、軽微な整備や点検、充電や電池の交換などが含まれ、「定期保守レベル」とは、システムのバージョンアップや、経年変化等による部品交換等が含まれる。

ところで、支援技術においては支援機器のみならず、ニーズに応じた支援機器の選定、入手、活用等に関する相談や情報提供も含まれることから、これらの支援サービスに対処できる担当者の教育および研修にかかる費用も必要である。しかしながら、支援技術における相談援助においては多様な専門性が求められ、そして、さまざまな支援機器の情報収集が必要であるが、担当者あるいは学内の担当部署のみで解決することは難しいことが多い。そのため、地域の社会資源と連携して支援サービスにあたることを望ましい。

この AT スタンダードでは、『福祉用具・支援技術・アクセシビリティ関連の参考 URL 集(2020/2/25 版)(参考資料 2)』として、支援技術の相談支援や情報収集に関するものをまとめたので、参考にしていただきたい。

また、支援技術が有効に活用されるためには、障害学生および障害学生支援に関わる教職員に対する研修費用も必要である。例えば、福祉用具展示会や支援技術関連セミナーへの参加費、学内での支援機器体験会等の開催にかかる費用である。